

授業科目名	幼児と表現	担当教員名	池内 恵美 / 石田 晶大
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分等	領域及び保育内容の指導法に関する科目-領域に関する専門的事項 表現 / 保育の内容・方法に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 1単位 (15時間)	授業方法/担当形態	演習 / オムニバス
開講学年/学期	2年 前期 (1期) / 年間開講数 2講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 ピアノ、声楽指導者として音楽教室を主宰している経験を活かし、音楽の基礎的知識、技能の習得のための指導を行っている。
授業の概要及び全体目標	領域「表現」のねらい及び内容を理解するために、子どもの表現活動に関する発達過程を踏まえて学習します。子どもたちが感じたことや考えたことを自分なりに表現することや、豊かな感性や表現する力を養うための知識、技能を身に付けます。 ※ICTの活用、協働学習を含む。		
到達目標	<p>(1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>②領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域「表現」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②領域「表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>		
テキスト	<p><池内>「アイデアいっぱい 保育者のための音楽表現」金指初恵 (大学図書出版)</p> <p><石田>「幼児造形の基礎～乳幼児の造形表現と造形教材～」樋口一成著 (萌文書林)</p>		
参考書・参考資料等	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社)		
成績評価の方法	<p><池内>○課題(ワークシートにまとめ、学びの過程を評価)：60% ○自ら課題を発見し積極的に取り組む授業参加度：30%</p> <p>○平常点：10%</p> <p><石田>関心・意欲・態度…授業準備状況、レポート等の提出状況(20%)、知識理解…レポートや配布プリントの記述(50%)、造形的な技能…実技の密度や丁寧な取り組み(30%)</p>		
授業外(事前・事後)学習の方法、オフィスアワー等	<p><池内>事前指導については授業で指示する。事後学習については授業内容を振り返りワークシートにまとめる。</p> <p>オフィスアワー：授業前、授業終了後に質問を受け付ける。</p> <p><石田>事前学習：授業に関連する資料や新聞の記事などを集めさせ、スクラップさせる。事後学習：製作完了後に鑑賞会を実施し、相互批評を行う。</p> <p>オフィスアワー：火曜日 授業終了後～17:30 (図工研究室)</p>		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	乳幼児の音楽表現について 保育指針、幼稚園教育要領、領域「表現」のねらい及び内容の理解する。(担当：池内)	1-(1)-①,1-(2)-①	
第2回	乳幼児の音楽表現の発達理解のためにICTの活用 ICTを活用した乳幼児の音楽表現活動を画像などや事例から音楽における発達過程を中心に理解を深める。(担当：池内)	1-(1)-①,1-(1)-④,1-(2)-①,1-(2)-②	
第3回	音楽表現の活動について 身の回りの音や楽器による音楽遊びの中で音の面白さに気付き、音の多様性を生かした音楽表現を行う。(担当：池内)	2-(4)	
第4回	音楽表現の活動内容について 簡易な楽器を用いて音遊びを学びの視点から捉え、音楽的な「学び」について考える。(担当：池内)	2-(2),(3),(4)	
第5回	子どもの発達段階と造形活動について 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容を理解する。(担当：石田)	(1)-①,②,③ (2)-①,②	
第6回	子どもの発達と造形表現の特性について 様々な実物参考事例や作品、ICTを活用した画像事例などから理解を深める。(担当：石田)	(1)-①,④ (2)-①,②	
第7回	造形活動の材料について 子どもの造形表現活動で用いる材料の特性を使用事例や実際に使うことによって理解を深める。(担当：石田)	(2)-①,②	
第8回	造形活動の用具について 子どもの造形表現活動で使う用具の特性を使用事例や実際に使うことによって理解を深める。(担当：石田)	(2)-②	